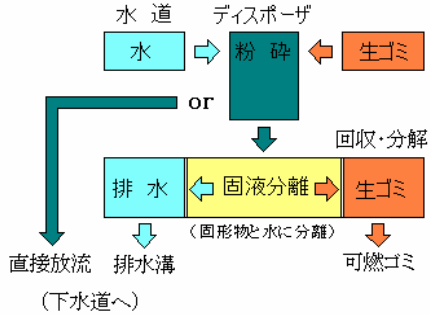
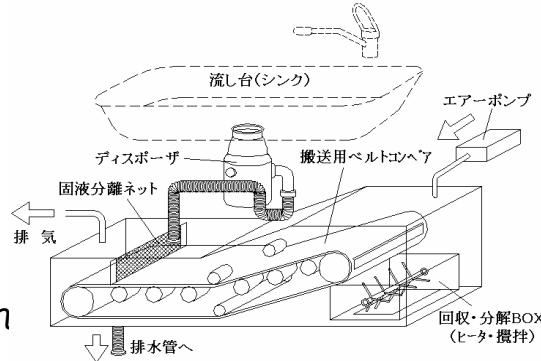


<p>研究成果</p>	<p>ディスポーザを使用した家庭用生ゴミ処理機</p>	
<p>利用分野</p>	<p>民生・家電</p>	
<p>中小企業が利用できるシーズの概要</p>		
<p>従来技術の概要</p>	<p>従来よりディスポーザを用いた生ゴミの処理方法には、ディスポーザーで粉砕した生ゴミを下水道に直接放出する方式と、回収装置を組み合わせ、水と粉砕物とに分離(固液分離)して、水だけを下水道に放出する二つの方式がある。 ここでは、固液分離型方式で発生する処理装置のトラブルの解消に向けた装置の開発を目的としたものである。</p> 	
<p>開発技術の概要</p>	<p>従来の固液分離型の問題点は、固液分離機構の目詰まりによる排水トラブルと回収した粉砕物が十分に回収・分解室に搬送出来ないで途中に取り残された生ゴミの腐敗臭や、分解が不十分で起こる悪臭の発生、漏れといった問題を抱え便利な生ゴミ処理機が普及していない。 また、流し台内部に設置するため収納スペースを占有してしまい、他の台所用品の格納場所がなくなる。 そこで、粉砕生ゴミの搬送方法をベルトコンベヤを導入して解決にあたる方法を考案した。 右図は装置の構成図を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固液分離の目詰まり対策 粉砕物が装置内に流入と同時に回収・分解BOXへ移送するため、固液分離ネットをクリアに保つことが可能。 ・臭気対策 生ゴミは分解効果的が十分であれば悪臭を放つことが激減する。固液分離ネットやベルトから生ゴミを離脱する機構を備えた。 ・収納スペースの確保 ベルトコンベヤの採用で装置の設置高が低く設定でき、また、流し台下部と床面の隙間のデッドスペースを設置場所に取り込むことで、収納スペースを確保することが出来る。 	
<p>技術開発の段階</p>	<p>諸問題解決の判断と装置の完成度を高める為に、実験による検証が必要となるため、実際に企業に提供するには若干の時間が必要である。</p>	
<p>技術提供の際の技術指導</p>	<p>可能</p>	<p>リエゾンセンター副センター長 河島信樹 Tel 06 6730 5880(4090) Fax 06 6727 4301 knobuki@ele.kindai.ac.jp</p>